

## IAUD Newsletter vol.8 第6号(2015年9月号)

- 1. 「HAND STAMP ART PROJECT」チャリティーライブ参加報告..... 1
- 2. 手話用語 SWG「全国ろう学生の集い」ワークショップ開催報告.....4
- 3. ワークスタイル PJ「二枚目の名刺」講演会開催報告.....6
- 4. グローバルネットワーク 海外のUD 関連団体リンク掲載.....10
- 5. 第8回 UD 検定・初級 浜松で実施及び中級公式テキストブック販売中.....11
- 6. IAUD 10月の予定..... 12

### 音楽を通して子どもたちの夢と希望を届ける

#### 「HAND STAMP ART PROJECT」チャリティーライブ参加報告

IAUD 総裁の瑤子女王殿下がプライベートにて支援活動をしております「HAND STAMP ART PROJECT」のチャリティーライブが、8月8日(土)に大田区民ホールアブリコ(東京・蒲田)で開催され、IAUDも協力させていただきました。

「HAND STAMP ART PROJECT」は、障害を抱えるお子さんの手形や足形を集めて、ギネス記録となる世界一大きな絵を描き、2020年の東京パラリンピックで掲示することを目標としており、現在は全国各地の療育施設や病院、コンサート会場を回るチャリティーライブを開催しています。

今号の Newsletter では、ライブ当日の様子を草間敏晴参事に報告していただきます。



「HAND STAMP ART PROJECT」  
チャリティーライブ会場の様子



主催者メッセージ

ライブに先立ち、会場スクリーンには主催者である「HAND STAMP ART PROJECT」代表 永峰玲子さんのメッセージが映されました。

会場は約170席が満席で、立ち見のほどでした。



司会の「みかん」さん

司会は「みかん」と名乗る女性が務められました。

HAND STAMP ART PROJECT  
代表の永峰玲子さん



代表の永峰さんより、障害児を生んで苦し  
かったことなど自らの体験を基に、障害児や  
そのご家族が繋がり合うことで、夢や希望を  
持ち、自信を持って前向きに生きていこう！  
と感じてもらいたい、との趣旨説明がありまし  
た。

友也くん(左)と友也くんのドラムの先生



ライブのオープニングは、発達障害を持つ  
原嶋友也くんのドラム演奏でした。

エバラさん(右)とたっぺえさん



次に、エバラ健太さんとたっぺえさんの演  
奏がありました。

エバラ健太さん



エバラ健太さん(本名:荏原健太。1983 年  
生。シンガーソングライター、ギターリスト)は、  
高校時代の友人を通してこのチャリティーラ  
イブに参加。

アンジェラ・アキや沢田知可子などの楽曲  
アレンジ、CM 楽曲など手掛けており、  
「HAND STAMP ART PROJECT」のテーマソ  
ングを歌っています。

たっぺえさん



たっぺえさん(本名:中丸達也。1987 年生。  
パーカッショニスト(楽器名:ジャンベ等)、コ  
ーラス)は洗足学園音楽大学ジャズコース卒  
業後、トリニダード&トバゴ共和国で打楽器  
修業。現在はプロ奏者として活動中です。



左から  
たっぺえさん、納豆ぼうや、佐藤さん、エバラさん

さらに、水戸出身のシンガーソングライター佐藤翔子さんが、エバラ健太さん作詞作曲の「納豆ワルツ」に合わせた踊りを伝授しました。

「納豆ワルツ」のキャラクターである「納豆ぼうや」も遅刻して登場しました。



スペシャルゲストの  
沢田知可子さん

サプライズゲストは、この活動を応援している歌手の沢田知可子さん。

テーマソング「いのちの花」を熱唱しました。



司会の瑠子女王殿下

司会を務めていた「みかん」と名乗る女性が、IAUD 総裁でもある瑠子女王殿下であると暴露されました。



最後のアンコールは主催者側全員で、合唱しました。(了)

「HAND STAMP ART PROJECT」の詳細は以下をご覧ください。

<http://handstampart.com/hazimeni.html>

## 災害緊急時コミュニケーションの有効性を再認識

### 手話用語 SWG「全国ろう学生の集い」ワークショップ開催報告

8月21日(金)に栃木県青年会館ホテルコンサレー(栃木・宇都宮)で開催された「第35回 全国ろう学生の集い」(全日本ろう学生懇談会主催)において、標準化研究 WG のサブ、手話用語サブワーキンググループ(以下手話用語 SWG)が「災害緊急時コミュニケーションを考えよう!」をテーマにしたワークショップを実施し、講師として聴覚障害を持っているメンバーの高橋雅尚氏と仁宮浩氏が参加しました。



今月号の Newsletter は、「全国ろう学生の集い」の様子を参加した仁宮氏に報告していただきます。

講師として参加した仁宮氏(左)と高橋氏

### 全国の学生同士の交流と意見交換を図る「全国ろう学生の集い」

「全国ろう学生の集い」は、全日本ろう学生懇談会(会員数 137 名)が主催する企画で、1981 年の第 1 回以来、毎年開催されており、今回で 35 回目となります。

全日本ろう学生懇談会の前身は 1959 年設立の「近畿ろう学生懇談会」で 1997 年にろう学生同士の全国的な連携を図るため「全日本ろう学生懇談会」が設立され、約 50 年の歴史があります。



「全国ろう学生の集い」会場の様子

「全国ろう学生の集い」の開催目的は、「全国の高等教育機関に在学する学生を取り巻く様々な問題を解決し、学生としての知識を得るための議論と研究、これに伴う情報交換を行う。また、学生の祭典、本会の目的に沿った活動の表明の場として、全国の学生同士の交流と意見交換を図る」としています。

### ワークショップ「災害緊急時コミュニケーションを考えよう!」

今回の「第 35 回 全国ろう学生の集い」は 8 月 20 日(木)から 23(日)まで 4 日間行われ、総勢 147 名の参加がありました。

2 日目の 8 月 21 日(金)には、9 つの分科会(「就職」「自己 PR」「スポーツ」「教育」「演劇」「デザイン」「手話翻訳」「法律」「難聴疑似体験」)が行われ、活発な発表と討論が展開されました。

私たち手話用語 SWG は「デザイン」の分科会を担当し、聴者 5 名、聴覚障害者 10 名の計 15 名の参加がありました。

始めに、IAUD の概要や手話用語 SWG の活動を紹介した後、「災害緊急時コミュニケーションを考えよう!」というテーマでワークショップを行いました。



熱心に議論するワークショップ参加者

ワークショップでは、4～5名編成の3グループになり、3つのシナリオ「津波」「火事」「地震」に沿って、「災害時にこんなコミュニケーションが必要」について議論しました。

途中、検証の場を設けて気づきを引き出しながら、再度じっくり議論する機会を設けました。

最後には参加者全員で、議論の内容を劇の形式でグループ毎に発表しました。

## UDのいろいろな考え方や分野を学べた

ワークショップ参加者から頂戴した意見や感想などを挙げます。

「短い時間の中で複雑なことは伝えられないから、伝えるべき大切なことは何かを意識して、それを誰にでも伝えるようにするにはどうしたらよいかを考えることが大切だと思います」

「普段は手話を使っている私ですが、いざボディランゲージとなると難しく感じました。(イメージはしやすいが、聞こえる人に伝えるためにはどうすれば…) 今朝から、このような体験をさせていただいて本当に勉強になりました」

「たとえどんな災害が起きても、ろう者と聴者とのコミュニケーションは重要なつながりだと考えました」

「UDの中にもいろいろな考え方や分野があることが学べました」

「同じ表現でも、表情があるのとないのでは伝わり方に差があるので、おおげさかなと思うくらいやったほうがよいと思いました」



グループ毎の発表の様子

## よりわかりやすいグローバルボディランゲージを検討



ワークショップ参加者と記念撮影

各グループでの発表では、災害が発生して避難するまでのコミュニケーションはなるべく簡潔に的確に伝え、避難先など災害後の落ち着いたシーンでは具体的に伝えることが必要、といった様子が見られました。

具体的には、災害時は「早く行くぞ」「頭をさげて」「聞こえない」「火事」「避難」などと、短い言葉でグローバルボディランゲージを使いながら避難誘導します。

一方、避難先では布団やご飯の場所、トイレの場所など放送内容がわからないことが予想されるため、これらを筆談で伝えるのは大変であることから、あらかじめ放送内容がテキスト化されているものを示して、「指す」というボディランゲージで簡単に済ませる配慮も必要であること

が理解できました。

今回のワークショップを通して、災害緊急時コミュニケーションの有効性について再認識できました。

また普段、手話でコミュニケーションされている方でも、ボディランゲージとなると考える構造が異なるために、どう伝えるかが難しいため、聴者と聴覚障害者がお互いに理解し合える災害緊急時コミュニケーションは何かを考え、よりわかりやすいグローバルボディランゲージにしていくことが重要であるとわかりました。

手話用語 SWG では、今後も本当に必要な「伝えるべきこと」は何であるかを見極め、よりわかりやすいグローバルボディランゲージを検討していきます。

10月14日(水)には筑波技術大学の学生たちに、私たちが検討したグローバルボディランゲージの案を提示し、それについての意見交換を行うための企画を予定しています。

### 手話用語 SWG メンバー募集中！

手話用語 SWG は一緒に活動くださるメンバーを募集しています。関心のある方は IAUD 事務局までご連絡ください。(了)

---

## 社会人が本業以外にも社会活動を行なう社会を目指して ワークスタイルPJ「二枚目の名刺」講演会開催報告

未来につながる多様な働き方の調査研究をしているワークスタイルプロジェクトは、8月28日(金)に HAB-YU platform(東京・六本木)において、NPO 法人「二枚目の名刺」の活動についての講演会を実施しました。

当日はPJや他のIAUD研究部会メンバーなど7人が参加する中、講師に「二枚目の名刺」理事の杉谷昌彦氏とメンバーの松澤寿典氏をお迎えし、講演及び働き方について議論を行いました。

今号のNewsletterでは、当日の講演及び議論の内容を同PJメンバーの室井哲也氏に報告していただきます。



講演する NPO 法人「二枚目の名刺」杉谷氏

### 未来の働き方を考える

ワークスタイルPJは、様々な特性をもつすべての人が気持ちよく働けるユニヴァーサルなワークスタイルの実現を目指して活動を行なっています。

将来の働き方の変化の兆しを得るために、現在行われている多様な働き方、例えば在宅を含むテレワーク、コワーキングスペース、子連れ出勤、シルバー人材センターなど、様々な種類の働き方について調査してきました。

2014年11月の「第5回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2014 in 福島&東京」では、「多様なワークスタイルの兆しから未来の働き方を考える」をテーマにワークショップを実施し、NPO 法人「二枚目の名刺」の活動とシルバー人材センターで派遣されている人たちの働き方を参考に、参加者自身のワークストーリーと未来の働き方について考え議論しました。

その際に「二枚目の名刺」の杉谷氏から、本業以外に\*2枚目の名刺を持って社会活動を行ない、本業と対立するのではなく個人として成長し、本業にも貢献できる、という活動についてお話しいただき、多くの参加者からインパクトを受けた、という感想を頂戴しました。特に、現職を辞めずに新しいことにチャレンジできる、ということが印象的なようでした。

また、ワークスタイル PJ としても、これからの働き方を考えていく上で、このスタイルは大きな柱となりそうだと考えました。

せっかくの貴重なヒントをもらいながら、ワークショップでは時間に制約があり話題が限定できなかつたため、今回、改めて講演をお願いしました。

なお、会場は富士通の HAB-YU platform を活用しました。HAB-YU platform は、富士通のデザイン部門を主軸としてワークスタイル変革をはじめ、新たなビジネス創出や地域産業の活性化、さらにはライフスタイルまで含めたフィールドへとデザインの貢献領域を拡大させ、共創プロセスによるデザイン活動に取り組んでいます

参考：<http://hab-yu.tokyo/>

\*注：一般名詞としては「2枚目の名刺」、団体の固有名詞としては「二枚目の名刺」と数字の表現を変えています。

## 社会人が2枚目の名刺を持つきっかけをつくる

「二枚目の名刺」は、「社会人が2枚目の名刺を持つきっかけをつくり、2枚目の名刺を持つ仲間を増やすことで、豊かで活力のある社会を実現すること」目指しているNPO法人です。

「たくさんの刺激を社会人に、そして社会に」をキーワードに、社会人が「二枚目の名刺」を通して成長していき、社会人が当たり前のように2枚目の名刺をもつ状態を目指して活動をしています。

そのために、(1)きっかけ作りと(2)雰囲気作りを行なっています。



熱心に議論する参加者

### (1) きっかけ作り

#### 1. サポートプロジェクト

サポートされるのは、新しい社会を創ることを目指し、社会課題解決を目的とするNPOなどの団体です。

この団体に対し、様々な背景を持った社会人がチームを組み、戦略、事業開発、マーケティングなどの課題解決を図っていく時限的な活動をします。

「二枚目の名刺」のメンバーは、コーディネーターやリーダーを務めます。社会人はコモンルーム(以下参照)で呼びかけ、チームを組成します。

このとき、社会人チームは2枚目の名刺を持って活動に参加していることとなります。

#### 2. コモンルーム

コモンルームの名称はイギリスの大学や寮などに設置されている、いろいろな学科の学生が集まる談話室に由来しています。

「二枚目の名刺」では、事業運営を軌道に乗せてより大きな活動に取り組みたいNPOと、社会を創ることにかかわりたいと思っている社会人のマッチングの場として位置づけられています。

## (2) 雰囲気作り

行政や学術機関や企業、メディアを通し、社会人が2枚目の名刺を持つスタイルを普及させています。

また、最近では法政大学の石山恒貴先生の書籍への寄稿なども実施しています。

現在、「二枚目の名刺」のメンバーは約24名、COMMONROOM参加者は延べ約2000名、サポートプロジェクト参加者は延べ約180名です。

また、2枚目の名刺を持つことで重要なことは、本業に対して手を抜かないことです。会社の中で価値を出せる社会人になることを目指しており、1枚目の名刺を大切にしています。

「なぜ2枚目の名刺が××なのか?」「本業はなぜ××に所属しているのか」の解を常に自分で考えることで、気づき、成長が得られます。

また、繰り返し説明していくことで自分を変えるきっかけを作ることができます。

## 2枚目の名刺を持つことが当たり前の社会へ

杉谷氏の講演の後、参加者全員で下記のような質疑とワークスタイルについて議論を行いました。(Q:質問、A:回答、C:コメント)

Q:趣旨としては、2枚目の名刺を持ちたいのか、それとも別の名刺を作りたいのか。

A:2枚目の名刺を持つきっかけを作り、2枚目の名刺を持つことが当たり前の社会を作りたい。とはいえ、社会人の多くは何をしたいのか、がはっきりとわかっておらず、こういった人たちが集まってくださり活動をしている。

現実的には、本当にやりたいことを明確に持っている方々は我々の団体ではなく、既に自分のやりたいことを実施しており、その名刺を持っていることが多いと感じる。

C:ワークスタイルPJで高齢者の調査をしたとき、何らかの社会的活動をしたい人と実際に活動している人の人数にはギャップがあることが分かった。似た課題かもしれない。

Q:2枚目の名刺は日本独特か。例えば米国では次々と職を移っていくので、2枚目はなさそうである。

A:日本でも長く職を続けるのは、暗黙知が重要な意味をもつ重工業の時代かららしい。

参考:<http://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2013/05/pdf/052-063.pdf>

C:日本では時間が余っていることもありそうだ。今まで仕事だけやってきた人が、定時に帰れと言われて戸惑っている。

C:やりたいことがない、やり甲斐を見つけられないというのは昔も同じ。しかし、昔は会社は継続する、という安心感が提供されていたので、その状態に安住できた。現在は会社の存続も保証がなく、無理やり探そうとしている側面もある。



←ワークストーリーについて議論する参加者

## 講演者のワークストーリーも参考

最後に杉谷氏と松澤氏の今までのワークストーリーについてお話を伺いました。

### 杉谷氏のワークストーリー

事務機の会社の営業マンで、「二枚目の名刺」の立ち上げ時から活動をしている。

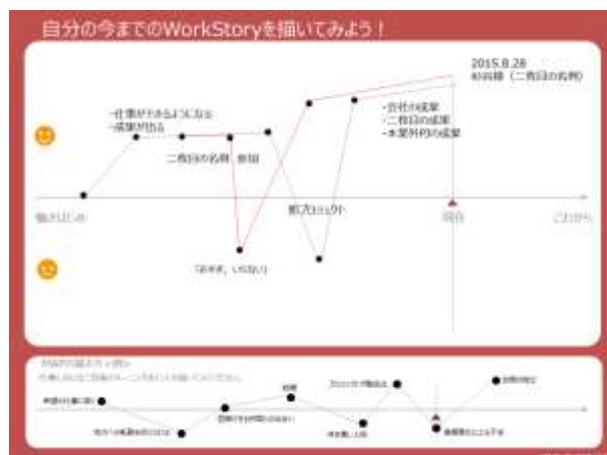
あるとき、「二枚目の名刺」で忙しく活動している割に、自分が本当にやりたいことがわからない、強い思いがない状態を代表に見抜かれ、「やりたいこと無いなら、うちの団体にいる意味ないんじゃない？」という言葉をもたらした。

非常にショックを受けた。しかし、これをきっかけに本当にやりたいことは何だ、と真剣に考え、それは「教育(人が成長する、変わるきっかけを作る)」だと気づいた。

後になってみると、代表は周りのメンバーからの心理的フォローも含め、用意周到にこの言葉を発してくれたことに気付いた。しっかりと内省するきっかけをもらい、自分の過去を振り返った。

会社の仕事で落ち込んだのは、この後の出来事である。しかし、「二枚目の名刺」で先に落ち込んだ経験から、やりたいことは何で、会社のためには何が重要ということブレずに考えることができたので、復活することができた。

「二枚目の名刺」で日経BP等に取り上げられたり、経済産業省とも関わり、最新の動向を社内でも実行していることから、社内でも自分の位置付けが変わってきた。



杉谷氏のワークストーリーマップ

### 松澤氏のワークストーリー

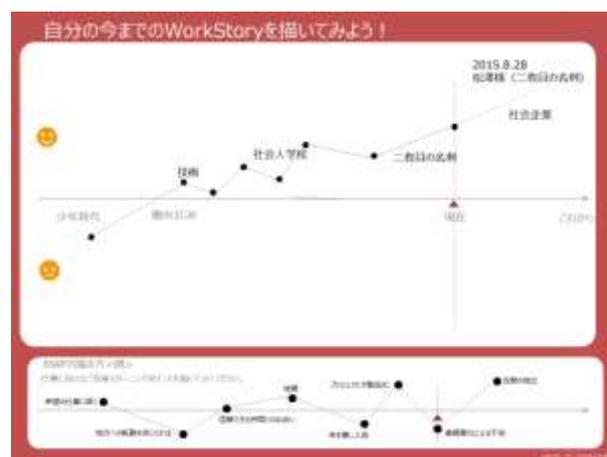
大手通信会社の技術系の管理職で、他のNPO 経由で「二枚目の名刺」に参加するようになった。

学生時代は経済的に恵まれた環境ではなかったが、会社に入ってみると、研究環境や福利厚生が充実しており、非常に恵まれていると感じた。

一方、会社の中でもっともっとやりたいことがあり、しかもそれは会社のためになると考えて提案したプランが採用されないなど、メンタルでへこむこともあった。

サポートするNPO 法人は主に10人以下の組織で、思いは強いが組織運営までは手がまわっていない団体が多い。そのため、改善できる点や提案できることがたくさんあり、結果にもつながりやすく、やりがいがある。今まで7つのプロジェクトを手掛けた。

プロボノ(専門家が知識スキルや経験を活かして社会貢献する)の立場に加えて、社会的課題について学ぶ機会も多く、またプロジェクトもよい経験になると思って参加している。また、サポート先の団体は個性的な人たちの集まりで、違う価値観を持っているので非常に興味深い。



松澤氏のワークストーリーマップ

## 人生の転機の「次なる一歩」の支えに

ワークスタイル PJ では、生きた軌跡をストーリー化して発信していく活動を継続的に実施しています。

自らの人生を次世代に語り継いでいくためのライブラリーであると共に、結婚や育児、海外転勤や思わぬアクシデント、身体特性の変化など、誰しにも訪れる人生の転機に、「次なる一歩」の支えとなるメディアとなることを目指して、継続的に活動を続けていきます。

### メンバー募集中！

ワークスタイル PJ では、様々なワークストーリーと一緒に取材しながらつくっていただけるメンバーを募集しております。詳細は IAUD 事務局までお問い合わせください。(了)

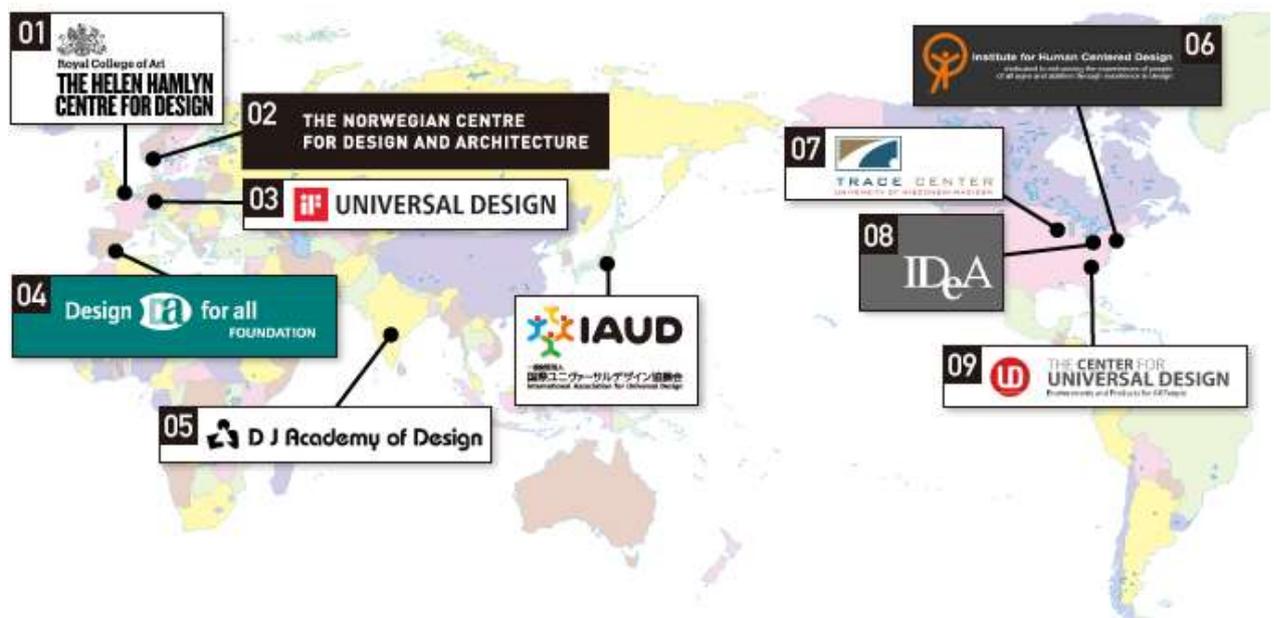
---

## IAUD Global Network 更なる海外の UD 関連団体と連携へ グローバルネットワーク 海外 UD 関連団体のリンク掲載

IAUD は海外の UD 関連団体と連携、定期的に情報交換や交流を行い、UD の更なる普及と実現を目指しています。

IAUD ホームページでは海外の UD 関連情報を随時配信しており、この度、海外の UD 関連団体のリンクを掲載しましたので、下記からご覧ください。

<http://www.iaud.net/globalnet/index.php>



IAUD が連携している海外の UD 関連団体



## オリンピック・パラリンピックのヴォランティアに役立ちます！ 第8回 UD 検定・初級 講習会&検定試験 浜松で実施 UD 検定・中級公式テキストブック販売中

IAUDでは「第8回 UD 検定・初級 講習会&検定試験」を2015年10月25日(日)にクリエイート浜松(静岡・浜松)で実施します。

今回も講習会(2時間)とUD 検定・初級試験(1時間・50問)のセット形式です。

合格者には「UD 検定・初級 認定証」を発行します。名刺への記載も可能です。

第8回 UD 検定・初級 講習会&検定試験の詳細は以下をご覧ください。



第6回 UD 検定・初級 (東京・芝浦)

<http://www.iaud.net/event/archives/1509/02-170000.php>

また、UD 検定・中級公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」も好評販売中です。

本書は各専門分野の第一線で活躍する方々が執筆し、具体的な事例を含めた広範なUDの知見をまとめました。UD 検定・中級の試験問題は本書に準拠して出題されます。

また、検定受験者だけでなく、すべての人にとって使いやすい商品やサービスを提供したい、住みやすいまちづくりをめざしたい、とお考えの方々にも非常に役立ちます。UDに関心のある方は、ぜひ本書をご利用ください。

公式テキストブックの詳細は以下をご参照ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1410/14-000000.php>



UD 検定・中級公式テキストブック

月	火	水	木	金	土	日
			1	2 13:00～ 手話用語 SWG @IAUD サロン 衣の UDPJ 2～3日 東北セミナー ←————→ @東北福祉大 学、女川町	3	4
5	6	7	8 15:00～ メディア UDPJ @NTT データ	9	10	11
12 体育の日	13 15:00～ 情報交流センター @IAUD サロン	14 15:00～ 手話用語 SWG WS@筑波技術 大学	15	16 15:00～ 運営委員会 @IAUD サロン	17	18
19	20 10:40～ 標準化研究 WG UD 出張授業 @江東区立第六 砂町小学校	21	22	23	24	25 13:00～ 第8回 UD 検 定・初級@クリ エート浜松
26	27	28	29 14:00～ 研究部会 @IAUD サロン	30	31	

Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。  
ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例の情報、国内外の UD 関連  
イベント、シンポジウムなどの開催情報をお寄せ下さい。

次号は 2015 年 10 月発行予定

特集：研究部会共同ワークショップ開催報告

アリゾナ州立大学とのワークショップ開催報告(予定)

**無断転載禁止**

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :  
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階  
電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : [salon@iaud.net](mailto:salon@iaud.net)